

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホームのどか	ユニット名	A棟
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81-4		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 12 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保険者や町の方から望まれ、2棟目の再開となったことから、個別支援の充実と、地域の中にあるグループホームとして認知してもらえるよう、積極的に地域行事に取り組んでいる。
また町の復興に合わせ、町内で生活するのに必要なものもそろってきたことから、できる限り町内の資源を活用し、住み慣れた地域で生活しているといった思いをもってもらえるよう支援を行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、石巻市から東に約10km、「奥の海」といわれた万石浦沿いの、蒲鉾・水産会社等が散在する閑静な住宅街にある。平成28年8月から2ユニットになり、女川町唯一のグループホームとして地域の方が安心して暮らせる受け皿として期待されている。行政の理解もあり、運営推進会議には毎回参加してアドバイスをいただいている。町内のクリーン作戦や祭り等に参加し、ホームのバーベキューの行事に招待するなど地域と交流している。近くにある同法人の特養とは密接に連携が取れている。清掃が行き届き、明るく広いリビングは清潔感に溢れており、入居者は、ソファでテレビを見たりお話をしたりと寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームのどか)「ユニット名 A棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりもあったことから、以前作成した理念について理解を深めるように取り組んでいる。	開設時の理念を踏襲している。年度初めに職員会議で振り返り、検討し、ホームに必要な理念として「このままが良い」の意見で継続している。事務所に貼り毎日確認し、新職員にも教育している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんの協力のもと、地域の行事等に参加してもらい、以前にも増して地域の中にある事業所として認知してもらえるようになった。	浦宿一区の町内会に加入し、広報誌を入居者全員に配っている。地域の秋祭りやクリーン作戦等に参加し、獅子振りの来訪がある。ホームの忘年会ではボランティアのチンドン隊が歌や踊りを披露してくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の診断を受け、対応に困っている方に対して話しを聞く機会を設け、当事業所への申し込みをしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子なども含めお伝えし、アドバイス等を頂いたりしている。	偶数月第3木曜日に定期的を開催しており、町、地域包括支援センター、区長、民生委員等の出席がある。元女川消防署長から、避難訓練時「消防を呼ぶ」「一連の流れを記録して残す」等の助言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のみならず、細かな点についても相談をし、より良い方法を提供できるようにアドバイスをもらいながら支援を行っている。	町職員との協力関係は密であり、調査当日に健康福祉課の職員が同席した。地域連携のSOSネットワークへの登録等について相談した。入居希望者の申し込みの相談をし、現在5名の待機者がいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることが無いよう日々確認をし、日々のケアに取り組んでいる。	法人で年2回、リスクマネジメント(身体拘束、虐待、食中毒等)について勉強会があり、職員が参加している。外出傾向のある方を地域の人が見守り、連絡をくれたり、連れて来てくれる。警察に不審者情報があり、パトカーで巡回をお願いした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護の研修に参加し、虐待につながる行為が無いように日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方もいることから、活用することを積極的にすすめ、相談を受けた場合にはお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面で同意をいただくのみならず、あわせて詳細を説明し、納得していただけるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会にいらっしゃった際にお話をする機会を設け取り組んでいる。	各種行事、運営推進会議等の他、面会時、通院時、支払い時等に入居者の状況を説明している。手に内出血しているのを家族が気づき、要因を探り対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場のみならず、現在の運営状況等を説明し意見を求めながら、日々の運営に取り組んでいる。	毎月のユニット会議等で職員の意見を聞いている。食事の好みはユニット毎に違うので、メニューは別々に作成している。ケアマネやヘルパー資格取得希望の職員に情報を提供し、勉強法をアドバイスしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で導入した人事考課制度を活用しながら、法人や事業所が求める職員像を伝えるとともに、本人のやりがいとなるスキルアップについても、考える機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップできるように研修等への参加を積極的に行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で交流する機会は設けているが、他の法人等との交流する機会を設ける取組は現在特段行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際にはできる限り声掛けを行い、ご家族にも協力をしてもらい、関係性を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みをもらった段階から話をする機会を設け、不安を解消できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが提供されるように、しっかりと意見を聞き、必要であれば他職種や外部の専門家等に協力をもらいながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で一方的に支援を行なうのではなく、できることは行なってもらい、日々の生活を送れるように声をかけあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良い生活が送れるようにご家族に相談する機会を設け、より良い方法を検討しながら支援にあたるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と関係性を継続できるように、地域の行事等への参加を積極的に行なっている。	町内出身者が多く、友人、知人、仮設住宅で知り合った人等との交流が続いている。町の「秋祭り」「クリーン作戦」等に参加時や特養主催の「夏祭り」「さんま祭り」等で知り合いに会いお互いに懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりをもてるように、座席の配置も十分に検討し、不都合がある場合にはその都度検討をするなどの取組を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴いサービスが終了してしまった方に対し、退院が決まった際に次のサービスにつなげられるように連絡をとったり相談の対応をおこなった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り意向に沿うことができるように、確認をするとともに、困難な場合には、ご家族も含めより良い生活が送れるように相談をしている。	日常生活の中での会話を通じて思いを聞いている。テレビ番組に誘発され、読書がしたいという入居者に職員が持っている本を貸すなど対応した。寒さが嫌な方には、夏場でも温かめの飲み物を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査を行なう段階で確認項目として確認をし、入居以降できる限り環境を整えるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活されていたペースを崩すこと無いよう日々の支援を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向等を確認しながら、事業所の職員のみならず専門職員の方にも意見をもらい作成を行なっている。	3ヵ月毎にモニタリングを行い、プランを見直している。「健康維持のため体を動かして」の家族の希望で血洗いや緑内障の方には眼圧を上げない目薬の投薬を忘れないようプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎に毎日生活記録を作成し、情報共有や今後の支援に活かすように対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在既存のサービス提供でまかなえる範囲での対応のみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の区長さん等から情報をいただき、地域の行事に参加をすることで、楽しみを持って生活することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけとなっている病院に通院できるように対応をしている。	通院は家族が同行し、毎日の生活状況や体調管理等の情報を提供している。家族に都合がつかない場合は、職員が同行している。夜間緊急時は救急車を呼ぶ。特養との連携がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門的な情報が必要となった場合には、特養の看護職員や地域医療センターに連絡し、相談をし対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際には情報提供をするともに、治療段階で退院に向けて相談を受けた場合には話し合いの場を設けてもらうように伝え、退院後も安心して生活できるように環境づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階から意向の確認を行なうとともに、体調重度化した場合など話し合いの場を設け、対応を行なっている。	入居時に「終末期の看取り等について(事前確認書)」により家族に説明し意向を確認している。併せて特養への申し込みもする。体調変化時には再度確認する。ホームでは医療行為が出来ないので、看取りはしない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修に参加したり、内部研修として実施する予定であったが、感染症の流行にて今年度はまだ実践できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定しての避難訓練を実施するように検討し、手順を確認しながらの訓練も実施する予定となっている。地域との協力については、何度か話しはでているものの、協力体制の構築とまではいっていない。	夜間想定を含め、避難訓練は2回実施している。消防署から「タオルで口を塞ぐ」「不在の目印に枕を出す」の指導があり、実行した。運営推進会議で訓練への住民参加協力を呼びかけるなど願いたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては、人生の先輩であることを尊重し、周りで聞いていておかしいと感じることがあれば、互いに注意しあうように対応をしている。	理念にある「人生の先輩を敬い知恵を学ぶ」により対応している。女性職員が嫌な方には男性職員が声がけしている。失禁時は周りに分からないように、さりげない声がけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、可能な限り意向を尊重するように声掛けを行い、決まったことを伝えるのではなく、どうするかといった問いかけをするように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声がはするものの、無理強いはしたりせず、本人の希望に沿って過ごせるように支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を準備する段階から、できる限り自分で行なってもらうとともに、身だしなみが乱れていないか確認をし、必要に応じて整える支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備段階から協力をしてもらい、最後の片づけまで利用者さんの誰かが携われるように声掛けを行なっている。	月1回、特養の栄養士が食事をし、メニューの指導も受けている。漁業の町らしく、毎週土曜日は「刺身の日」である。季節毎に家族の差し入れがあり、魚等を見て季節を感じている。晩酌を楽しんでいる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を生活記録に毎食記録するとともに、1日の水分摂取量も記載し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自力行なうことができる人には声掛けをし、困難な方については、付き添い支援を行い清潔を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が行なえるように環境を整えるとともに、声掛けにてできる限り行なってもらっている。	共用トイレ2箇所の他、全室にトイレが完備されている。自立している方が6名おり、他の方もパターンに応じた定期的声掛けでトイレに誘導している。夜間は排泄時間と物音で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、便秘症の診断を受けている方などについては、医師に相談をし、内服薬の処方を適切に行なってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ確認するが、完全に個々の希望に沿っているとは言い難いところはある。	好きな時間に入浴できるが、午後の時間帯に、週2~3回の入浴である。匂いがしたり、汚れた方には時間を置かないですぐ入浴していただく。水虫の方には足浴、体調が悪い方には手・足を清拭している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間で支援を行うのではなく、声をかけ確認しながら、本人の意向に沿って支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を確認し、服用してもらっている。服用し状態の変化など確認をし、通院の際には服用しての状況を伝えられるように対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活をできる方については、無理のない範囲で行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を設けるよう行事を設定したり、必要物品の購入の際に外出をしている。	年間の行事計画があり、車いす対応の車で遠出もできる。初詣の大宮神社、湯殿山神社、日和山の花見、石巻のいちご狩り、復興商店街での買い物等に出かけている。天気が良い日は、近所の散歩や、近くのスーパーに買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理することは困難なため、お小遣いとして預かり、必要物品等を一緒に購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からご家族に電話をしたり手紙を送ったりすることはなく、希望があった際に職員が電話をかけ取り次ぐ支援をしたことはある、		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをできる限り持ち込んでもらい入所前と同じ環境で過ごせるように、協力をしてもらっている。	共用場所と各居室にはエアコンと加湿器が完備されており、温度・湿度が適切に管理されている。リビングの広い窓からは暖かい光が差し込んでいる。入居者と職員の清掃と消毒で、ホーム内が清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方を同じテーブルにし食事やお茶をとってもらえるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをできる限り持ち込んでもらい入所前と同じ環境で過ごせるように、協力をしてもらっている。	夜間、居室の入口には鍵を掛け、外には非常時のヘルメットがあり、入居者の安心に繋がっている。家具、テレビ等を持ち込み、居心地よく過ごしている。位牌・遺影が置かれ、花・水・菓子等を備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけ自分の部屋として認識してもらえるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493500029		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホームのどか	ユニット名	B棟
所在地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81-4		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 12 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保険者や町の方から望まれ、2棟目の再開となったことから、個別支援の充実と、地域の中にあるグループホームとして認知してもらえるよう、積極的に地域行事に取り組んでいる。
また町の復興に合わせ、町内で生活するのに必要なものもそろってきたことから、できる限り町内の資源を活用し、住み慣れた地域で生活しているといった思いをもってもらえるよう支援を行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 29 年 3 月 24 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、石巻市から東に約10km、「奥の海」といわれた万石浦沿いの、蒲鉾・水産会社等が散在する閑静な住宅街にある。平成28年8月から2ユニットになり、女川町唯一のグループホームとして地域の方が安心して暮らせる受け皿として期待されている。行政の理解もあり、運営推進会議には毎回参加してアドバイスをいただいている。町内のクリーン作戦や祭り等に参加し、ホームのバーベキューの行事に招待するなど地域と交流している。近くにある同法人の特養とは密接に連携が取れている。清掃が行き届き、明るく広いリビングは清潔感に溢れており、入居者は、ソファでテレビを見たりお話をしたりと寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームのどか)「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりもあったことから、以前作成した理念について理解を深めるように取り組んでいる。	開設時の理念を踏襲している。年度初めに職員会議で振り返り、検討し、ホームに必要な理念として「このままが良い」の意見で継続している。事務所に貼り毎日確認し、新職員にも教育している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんの協力のもと、地域の行事等に参加してもらい、以前にも増して地域の中にある事業所として認知してもらえるようになった。	浦宿一区の町内会に加入し、広報誌を入居者全員に配っている。地域の秋祭りやクリーン作戦等に参加し、獅子振りの来訪がある。ホームの忘年会ではボランティアのチンドン隊が歌や踊りを披露してくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の診断を受け、対応に困っている方に対して話しを聞く機会を設け、当事業所への申し込みをしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子なども含めお伝えし、アドバイス等を頂いたりしている。	偶数月第3木曜日に定期的に開催しており、町、地域包括支援センター、区長、民生委員等の出席がある。元女川消防署長から、避難訓練時「消防を呼ぶ」「一連の流れを記録して残す」等の助言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のみならず、細かな点についても相談をし、より良い方法を提供できるようにアドバイスをもらいながら支援を行なっている。	町職員との協力関係は密であり、調査当日に健康福祉課の職員が同席した。地域連携のSOSネットワークへの登録等について相談した。入居希望者の申し込みの相談をし、現在5名の待機者がいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることが無いよう日々確認をし、日々のケアに取り組んでいる。	法人で年2回、リスクマネジメント(身体拘束、虐待、食中毒等)について勉強会があり、職員が参加している。外出傾向のある方を地域の人が見守り、連絡をくれたり、連れて来てくれる。警察に不審者情報があり、パトカーで巡回をお願いした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護の研修に参加し、虐待につながる行為が無いように日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方もいることから、活用することを積極的にすすめ、相談を受けた場合にはお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面で同意をいただくのみならず、あわせて詳細を説明し、納得していただけるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会にいらっしゃった際にお話をする機会を設け取り組んでいる。	各種行事、運営推進会議等の他、面会時、通院時、支払い時等に入居者の状況を説明している。手に内出血しているのを家族が気づき、要因を探り対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場のみならず、現在の運営状況等を説明し意見を求めながら、日々の運営に取り組んでいる。	毎月のユニット会議等で職員の意見を聞いている。食事の好みはユニット毎に違うので、メニューは別々に作成している。ケアマネやヘルパー資格取得希望の職員に情報を提供し、勉強法をアドバイスしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で導入した人事考課制度を活用しながら、法人や事業所が求める職員像を伝えるとともに、本人のやりがいとなるスキルアップについても、考える機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップできるように研修等への参加を積極的に行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で交流する機会は設けているが、他の法人等との交流する機会を設ける取組は現在特段行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際にはできる限り声掛けを行い、ご家族にも協力をしてもらい、関係性を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みをもらった段階から話をする機会を設け、不安を解消できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが提供されるように、しっかりと意見を聞き、必要であれば他職種や外部の専門家等に協力をもらいながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で一方的に支援を行なうのではなく、できることは行なってもらい、日々の生活を送れるように声をかけあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良い生活が送れるようにご家族に相談する機会を設け、より良い方法を検討しながら支援にあたるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と関係性を継続できるように、地域の行事等への参加を積極的に行なっている。	町内出身者が多く、友人、知人、仮設住宅で知り合った人等との交流が続いている。町の「秋祭り」「クリーン作戦」等に参加時や特養主催の「夏祭り」「さんま祭り」等で知り合いに会いお互いに懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりをもてるように、座席の配置も十分に検討し、不都合がある場合にはその都度検討をするなどの取組を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ数年退所される方がいらっしゃらないことから、そういった支援が必要となった場合には対応をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り意向に沿うことができるように、確認をするとともに、困難な場合には、ご家族も含めより良い生活が送れるように相談をしている。	日常生活の中での会話を通じて思いを聞いている。テレビ番組に誘発され、読書がしたいという入居者に職員が持っている本を貸すなど対応した。寒さが嫌な方には、夏場でも温かめの飲み物を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査を行なう段階で確認項目として確認をし、入居以降もできる限り環境を整えるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活されていたペースを崩すこと無いよう日々の支援を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向等を確認しながら、事業所の職員のみならず専門職員の方にも意見をもらい作成を行なっている。	3ヵ月毎にモニタリングを行い、プランを見直している。「健康維持のため体を動かして」の家族の希望で血洗いや緑内障の方には眼圧を上げない目薬の投薬を忘れないようプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎に毎日生活記録を作成し、情報共有や今後の支援に活かすように対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在既存のサービス提供でまかなえる範囲での対応のみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の区長さん等から情報をいただき、地域の行事に参加をすることで、楽しみを持って生活することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけとなっている病院に通院できるように対応をしている。	通院は家族が同行し、毎日の生活状況や体調管理等の情報を提供している。家族に都合がつかない場合は、職員が同行している。夜間緊急時は救急車を呼ぶ。特養との連携がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門的な情報が必要となった場合には、特養の看護職員や地域医療センターに連絡し、相談をし対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際には情報提供をするともに、治療段階で退院に向けて相談を受けた場合には話し合いの場を設けてもらうように伝え、退院後も安心して生活できるように環境づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階から意向の確認を行なうとともに、体調重度化した場合など話し合いの場を設け、対応を行なっている。	入居時に「終末期の看取り等について(事前確認書)」により家族に説明し意向を確認している。併せて特養への申し込みもする。体調変化時には再度確認する。ホームでは医療行為が出来ないので、看取りはしない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修に参加したり、内部研修として実施する予定であったが、感染症の流行にて今年度はまだ実践できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定しての避難訓練を実施するように検討し、手順を確認しながらの訓練も実施する予定となっている。地域との協力については、何度か話しはでているものの、協力体制の構築とまではいっていない。	夜間想定を含め、避難訓練は2回実施している。消防署から「タオルで口を塞ぐ」「不在の目印に枕を出す」の指導があり、実行した。運営推進会議で訓練への住民参加協力を呼びかけるなど願いたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては、人生の先輩であることを尊重し、周りで聞いていておかしいと感じることがあれば、互いに注意しあうように対応をしている。	理念にある「人生の先輩を敬い知恵を学ぶ」により対応している。女性職員が嫌な方には男性職員が声がけしている。失禁時は周りに分からないように、さりげない声がけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、可能な限り意向を尊重するように声掛けを行い、決まったことを伝えるのではなく、どうするかといった問いかけをするように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声がはするものの、無理強いはしたりせず、本人の希望に沿って過ごせるように支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を準備する段階から、できる限り自分で行なってもらうとともに、身だしなみが乱れていないか確認をし、必要に応じて整える支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備段階から協力をしてもらい、最後の片づけまで利用者さんの誰かが携われるように声掛けを行なっている。	月1回、特養の栄養士が食事をし、メニューの指導も受けている。漁業の町らしく、毎週土曜日は「刺身の日」である。季節毎に家族の差し入れがあり、魚等を見て季節を感じている。晩酌を楽しんでいる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を生活記録に毎食記録するとともに、1日の水分摂取量も記載し、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自力行なうことができる人には声掛けをし、困難な方については、付き添い支援を行い清潔を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が行なえるように環境を整えるとともに、声掛けにてできる限り行なってもらっている。	共用トイレ2箇所の他、全室にトイレが完備されている。自立している方が6名おり、他の方もパターンに応じた定期的声掛けでトイレに誘導している。夜間は排泄時間と物音で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、便秘症の診断を受けている方などについては、医師に相談をし、内服薬の処方を行なってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ確認するが、完全に個々の希望に沿っているとは言い難いところはある。	好きな時間に入浴できるが、午後の時間帯に、週2~3回の入浴である。匂いがしたり、汚れた方には時間を置かないで入浴していただく。水虫の方には足浴、体調が悪い方には手・足を清拭している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間で支援を行うのではなく、声をかけ確認しながら、本人の意向に沿って支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を確認し、服用してもらっている。服用し状態の変化など確認をし、通院の際には服用しての状況を伝えられるように対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活をできる方については、無理のない範囲で行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を設けるよう行事を設定したり、必要物品の購入の際に外出をしている。	年間の行事計画があり、車いす対応の車で遠出もできる。初詣の大宮神社、湯殿山神社、日和山の花見、石巻のいちご狩り、復興商店街での買い物等に出かけている。天気が良い日は、近所の散歩や、近くのスーパーに買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理することは困難なため、お小遣いとして預かり、必要物品等を一緒に購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からご家族に電話をしたり手紙を送ったりすることはなく、希望があった際に職員が電話をかけ取り次ぐ支援をしたことはある、		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをできる限り持ち込んでもらい入所前と同じ環境で過ごせるように、協力をしてもらっている。	共用場所と各居室にはエアコンと加湿器が完備されており、温度・湿度が適切に管理されている。リビングの広い窓からは暖かい光が差し込んでいる。入居者と職員の清掃と消毒で、ホーム内が清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方を同じテーブルにし食事やお茶をとってもらえるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをできる限り持ち込んでもらい入所前と同じ環境で過ごせるように、協力をしてもらっている。	夜間、居室の入口には鍵を掛け、外には非常時のヘルメットがあり、入居者の安心に繋がっている。家具、テレビ等を持ち込み、居心地よく過ごしている。位牌・遺影が置かれ、花・水・菓子等を備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけ自分の部屋として認識してもらえるように配慮している。		